



プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から約4年半が経過し、少しずつ復興の目処が立ってきているが、まだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の作業が難しい。また福島県の農家の方々は放射線量を下げするために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるのに、一部の消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。そこで私たちはそのことにスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には、様々なイベントに参加し福島産のものを販売しながら呼びかけを行ったり、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。また、震災の記憶の風化防止ということも目的の一つとして活動を行っている。被災地にはまだ避難生活を余儀なくされている方や、支援の手を必要としている方が沢山いるが、震災から長い時間が経ち日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで講演会や展示会の開催などして、一般の方にも再度震災を考えてもらうための機会を提供している。そして、「福島は震災のあった場所」というイメージを払拭出来るように、福島の優れている点などを発信するような活動を行っている。

活動状況報告 & 活動写真など 活動期間：2015年6月20日～9月30日

○大宮祭 5月31日

今年も屋台を出店し、福島県産のもろきゅうの販売を行った。きゅうりの発注元はJA伊達みらいの「んめ〜べ」という物産館で、味噌は目黒麴店にお願いしている。どちらも毎年、大学祭をはじめとする屋台企画でお世話になっているお店であり、親交が深い。このように現地とこまめに連絡を取り合えることは、非常にありがたいことであり、この関係をこれからも継続させていきたい。

また、大宮祭の準備は当日まで滞りなく進んだ。少人数でも、連絡を取り合い、積極的に助け合うことで上手くやれるということを実感するとともに、チームワークを発揮できて嬉しく思う。当日は天候にも恵まれ、屋台の中でおそらく一番初めに完売することができた。しかし閉会までに時間があり、もっとたくさんの人に食べていただきたかったという悔しさと、高い目標を設定する大胆さにかけて部分に反省が残った。それでも、たった半日足らずで100人以上の方々に福島県の食べ物の美味しさを届けることが出来た。

私たちが屋台に参加することは福島県の食品の安全性や美味しさを体感してもらうことに加えて、福島県の食品についての意識調査にもつながっているが、良くも悪くも「福島県の野菜だから買う/買わない」という声はほぼ聞かれなかった。この地域、主に関東では既に、東日本大震災に対する意識が薄れている、あるいは福島県産の食品への不安が減少しているという推測が得られた。これからも屋台企画



を通し、消費者のリアルな声から必要な課題を見つけるとともに、たくさんの人から「美味しい」と言ってもらえるよう力を尽くしたい。



<屋台のようす>



<購入者のようす>

○東大宮サマーフェスティバル 8月7日 ~ 8月8日

今年も東大宮中央公園にて二日間開催される東大宮サマーフェスティバルに、東大宮自治会の方たちのご厚意により、出店させていただきました。今年度は福島県産の味噌とこんにゃくを用いた味噌田楽と福島産の桃を使用した桃の恵み（桃ジュース）及び炭酸桃ジュースを販売した。

屋台を運営していくメンバーが少ないということやこんにゃくを茹でるための機器の操作の不慣れ等もあり、販売初日では時間通り販売を開始することが出来なかったため一つの反省点である。しかし、その後の販売では滞りなく進めることができ、無事に売り切ることが出来た。二日目では初日の反省を生かして準備の段階からスムーズに進めることができ、ほぼ時間通りに販売を開始することができた。

結果的に味噌田楽 200 食、桃ジュース&炭酸桃ジュース 140 本を販売し、福島の食べ物のおいしさを伝えることが出来た。特に桃ジュースはそのやさしい味から小さい子供たちに人気であった。また、桃そのものがほしいという声も見受けられたため、着実に福島の魅力について伝わってきているのではないかと感じている。継続的な魅力・情報の発信は重要であるので今後もできるだけこういった活動を続けていきたい。

○福島ツアー 8月20日

8月20日に、今回で4度目となる福島ツアーを実施した。過去3回のツアーとは異なり「若者と福島について考える」をテーマを掲げ、本学を含む大学生のツアー参加者とともに、勿来地域と、アクアマリンふくしま、物産館ら・ら・みゅうを訪れた。今回のツアーは同じ学生プロジェクトである「笑顔のまち なこそ復興プロジェクト」と地元 NPO 法人「なこそ復興プロジェクト」、ワタルツーリストに協力



していただき、実施可能となった。

● 勿来地域見学・ワークショップ

福島県と茨城県の県境の海岸沿いにある勿来地域は、東日本大震災で津波の被害を受けた。ここでの復興を引っぱる「なこそ復興プロジェクト」は「笑顔のまち なこそ復興プロジェクト」などととも様々な活動を行っている。ツアーでは2団体の案内のもと、建設中の堤防や防災緑地予定地を見学したり、当時の様子や現状、復興にまつわるイベントなどの話を伺ったりした。その後歴史文化館の吹風殿で、「なこそをより良いまちにするには」というテーマを設定し、参加者、「笑顔のまち なこそ復興プロジェクト」の学生と本プロジェクトの学生でグループをつくり、ワークショップを行った。見学時に気づいたこと、感じたことを各々自由に書き出し、互いの意見を聞きながら、最終的には模造紙にまとめて発表した。最後には「なこそ復興プロジェクト」代表の方から講評もいただいた。自分の目で実際に見てくることで、より深く、現実的に考えられるようになり、大変有意義な時間が過ごせたと感じている。

● アクアマリンふくしま、ら・ら・みゅう

見学やワークショップで頭を使ったあとは、リフレッシュしてもらいつつ、福島が誇る観光地をみてもらいたい、ということで水族館アクアマリンふくしまと、隣接している物産館ら・ら・みゅうを訪れた。ワークショップが白熱ぎみで少々時間がおしてしまったが、珍しい海洋生物や福島ならではのお土産などを参加者にはしっかり楽しんでもらった。



〈勿来地域見学〉



〈ワークショップ〉



今後の活動計画、目標、意気込みなど

今後の活動計画

今後の活動計画として 11月に実施される芝浦祭での福島県産の食材を使った屋台販売、またそれと同時に今までの私たちの活動内容及び福島県現状などをまとめた展示会を開催する予定である。それによって、福島県の良い印象を与えるのはもちろんのこと、私たちの知名度も上げることを考えている。またその他の活動として、会員性のようなシステムをつくり情報を流すことから始め、最終的にはいまままで知り合ってきた農家さんや、JAの方と連携をとり、会員向けの、野菜などのカタログの作成を考えている。この企画を行う際のスタートとして、自分たちの一番身近な芝浦の学生に呼びかけをしてみることから始めるつもりである。それによって8月に行ったツアー同様、若い人からの関心が生むことができ、今年度の活動の軸としている「若い世代に繋いでいく」ということを達成することが期待される。